

# 静岡県での障害者就業支援策

静岡県商工労働部就業支援総室  
牛島 聡

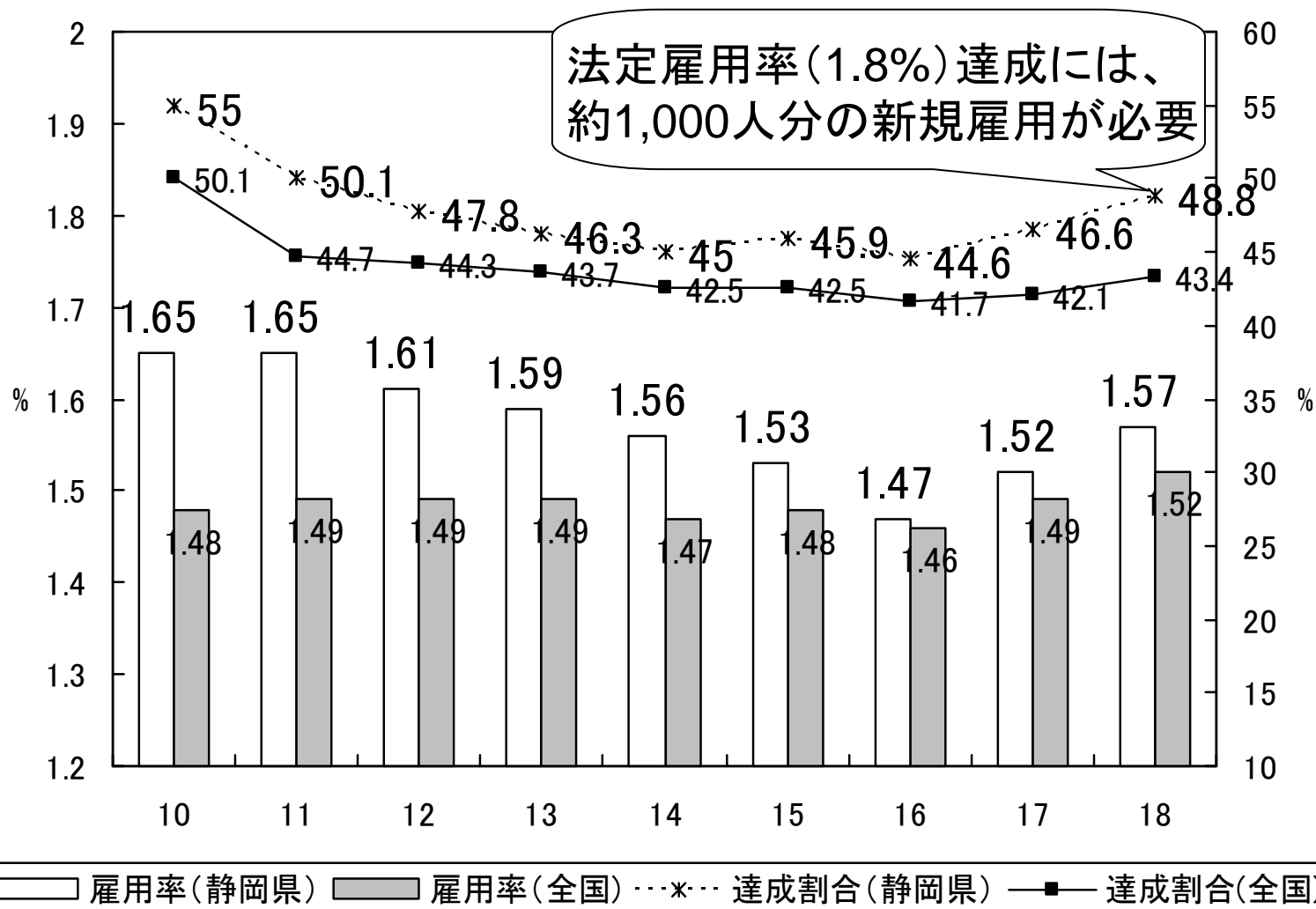


Tel:054-221-3370

Mail:satoshi1\_ushijima@pref.shizuoka.lg.jp



# 民間企業における障害者雇用率の推移



# 障害者の就業希望状況

○就業希望障害者数(推計 18.3.31現在)

18~64歳	手帳所持者	就業者	就業希望者
視覚障害 (うち軽度)	3,080 (594)	1,576 (297)	422 (148)
聴覚障害 (うち軽度)	3,452 (641)	1,924 (442)	846 (176)
肢体不自由 (うち軽度)	25,199 (4,768)	9,391 (2,865)	4,445 (1,179)
内部障害	10,670	4,615	1,631
知的障害 (うち軽度)	14,089 (7,872)	7,010 (4,605)	2,486 (1,724)
就業希望者合計 (うち軽度)			9,830 (3,227)



# ハローワークにおける求職登録状況 (18. 3. 31現在)

身体障害者 2,880人

知的障害者 1,085人

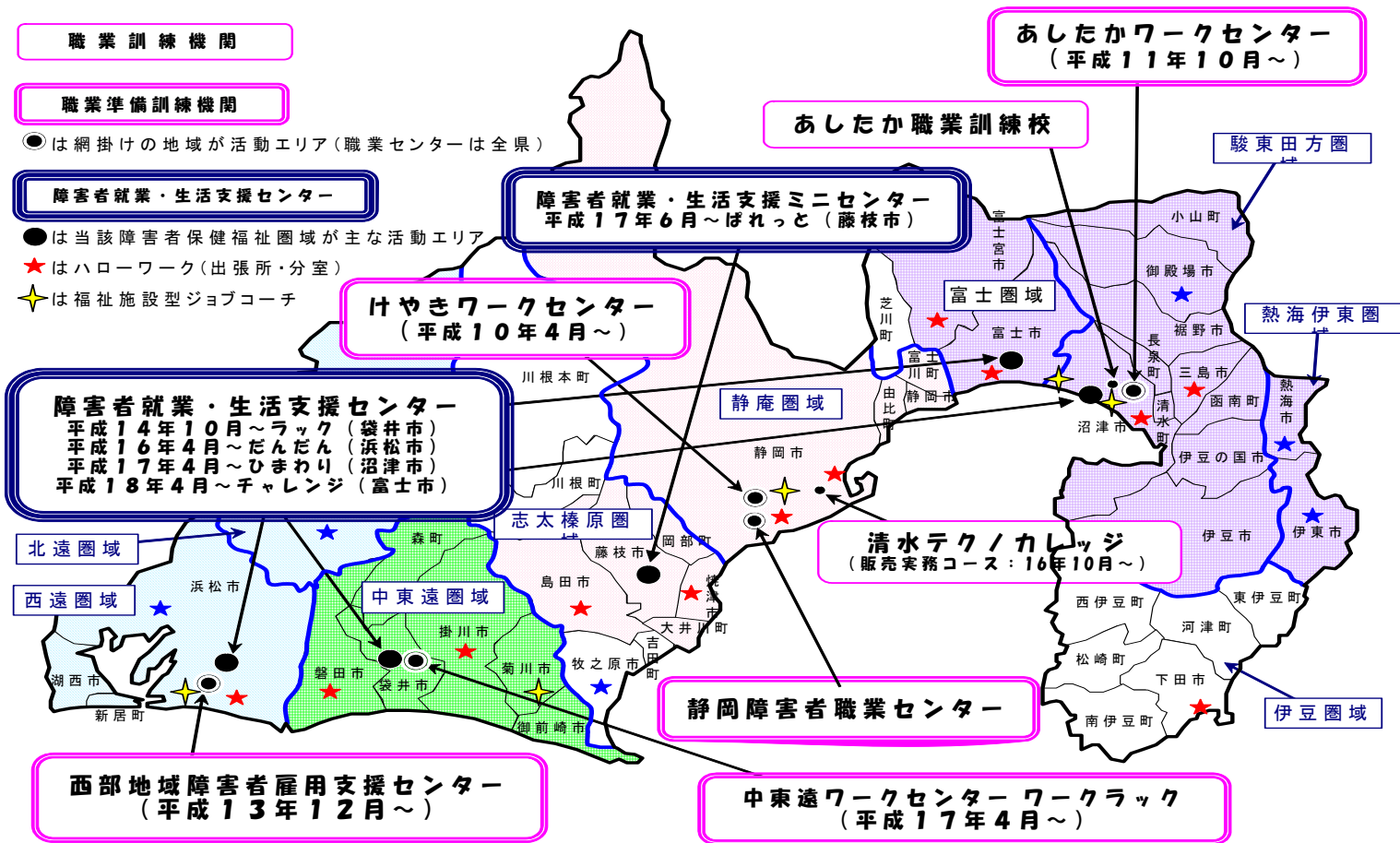
精神障害者 553人

---

合 計 4,518人



# 静岡県における障害者就労支援体制マップ



# 障害者就業・生活支援センター 及び同ミニセンター

## 【役割】 地域における総合支援窓口・連携の拠点

### 1 障害者就業・生活支援ミニセンターの設置

国の障害者就業・生活支援センター未設置地域に設置。  
県単独予算で就業支援スタッフを配置(1ヶ所1名)。

### 2 支援内容

- 生活相談:日常生活の自己管理に関する  
助言や生活設計に関する助言など
- 就職相談:就職に向けた準備支援(職業準備訓練  
職場実習の斡旋)や関係機関との連絡調整など
- ネットワーク会議の開催  
雇用、保健、福祉、教育等の地域の関係機関と就業面及び  
生活面の一体的な支援を行うため、連絡調整会議を開催。  
(メンバー)ハローワーク、地域障害者職業センター、事業主、  
養護学校、福祉施設、福祉事務所、保健所等
- 企業内授産・実習の実施

### 3 実績 実習斡旋件数及び就職者数

※( )内はうち就職者数 (平成18年9月末現在)

	15年度	16年度	17年度	18年度
沼津	—	—	43(17)	26(22)
富士	—	—	(ミニ) 36(20)	39(19)
藤枝	—	—	(ミニ) 40(10)	(ミニ) 63(15)
袋井	29(15)	33(17)	46(15)	30(16)
浜松	—	62(32)	94(34)	40(23)
計	29(15)	95(49)	259(96)	198(95)

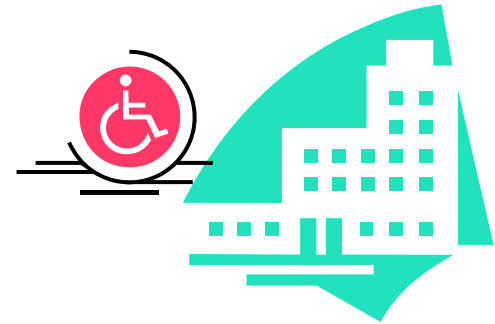


# ワークセンター

## 【役割】職業準備訓練の拠点

### 1 ワークセンターの運営

東部・中部は県(3/4)と市町(1/4)の負担により運営。  
中東遠・西部は国と市町の負担により運営。



### 2 支援内容

障害のある方に対して、就職や職業生活を可能とするため、就職前の訓練から職場定着に至るまでの指導・相談・援助を一貫して行う支援体制を整備する。

### 3 実績(訓練を修了し、就職した人数)

	訓練期間	15年度	16年度	17年度	18年度
東部(⑪～)	6ヶ月	9	9	8	4(I期)
中部(⑩～)	6ヶ月	12	9	9	6(I期)
中東遠(⑰～)	2週間～1年	—	—	5	訓練実施中
西部(⑬～国)	1年	15	19	19	
計		36	37	41	





# 職業訓練施設



## 【役割】就職に直結の職業訓練の拠点

### 1 あしたか訓練校

新規学卒者向け

期間:1年間 全寮制

#### ○コンピューター科(10名)

ワープロ・データベース・CAD・ホームページ

作成など

#### ○生産・サービス科(40名)

・機械操作コース

工作機械操作、金属加工仕上

・加工組立コース

電子・電気部品の組立(ハンダ付け)

・流通・環境コース

販売業務、清掃業務など

### 2 清水技術専門校

離転職者、施設入所者向け

期間:6ヶ月 通学制

#### ○販売・サービス科(10名×2年間)

商品の仕分け、陳列、清掃業務など

※離転職者、施設入所者向けとしては、そのほかに、委託訓練(福祉施設、NPO、事業主)を実施。18年度定員は140名。

### 3 実績(訓練を終了し、就職した人数)

		15年度	16年度	17年度	18年度
あしたか校	修了者数	23	34	47	訓練 実施中
	就職者数	23	33	42	
清水校	修了者数	—	7	10	
	就職者数	—	5	7	





# 各拠点を巻き巻くサポート

## 1 障害者求人開拓事業

- 事業主団体に委託し、県内事業所を個別訪問し、求人開拓を行うスタッフを2名配置。
- 事業所訪問だけでなく、養護学校や施設も訪問し、個別の求職者を念頭に置いた求人開拓を実施

## 2 ジョブコーチ派遣事業

- 国(障害者就職センター)のほかに、県独自のジョブコーチ派遣事業を実施。
- NPOに委託し、就職支援及び職場定着支援を行っている。  
(NPOにジョブコーチとして登録している人は現在35名)
- 支援対象者1人当たり15回を上限に活動費を補助。
- 委託先NPOを国のジョブコーチ助成金の支給対象となるジョブコーチ養成機関とするよう検討中。

### 【実績】

(平成18年10月末現在)

	15年度	16年度	17年度	18年度
訪問数(回)	—	559	1,297	877
開拓件数	—	27	301	323
就職件数	—	16	56	49

### 【実績】

(平成18年10月末現在)

	15年度	16年度	17年度	18年度
派遣件数	63	83	125	70
就職件数	12	24	23	1
定着件数	28	31	67	20



# 静岡県入札制度における 障害者多数雇用事業所の優遇

(平成17年度実績)

業 種	内 容	入札参加 資格者数	優遇名簿 登録者数	優遇実施 回数
庁舎管理業務	入札参加資格者名簿の審査付与数値に追加点数を5点付与。 ⇒指名競争入札において選定されるための条件が向上。	604	48	195
情報システム開発	少額(100万円以下)の随意契約において、見積徴収企業に優遇企業を含める。	223	2	7
森林整備工事	治山事業で実施する森林整備工事の指名競争入札における指名業者選定において、配慮すべき企業として勘案する。	36	2	0
建設工事	建設工事入札参加資格において、総合点数への加点を行う。	6, 241	196	723
物品購入	指名競争入札において、優遇希望企業を追加指名する。また、授産所製品を積極的に購入する。	2, 817	55	3
合 計		9, 921	303	928

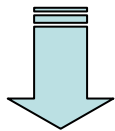


# 2007年11月ユニバーサル技能五輪国際大会の開催

## 史上初めて技能五輪国際大会と国際アビリンピックを 同時開催！

国際アビリンピックには、  
全30職種に40カ国から400名の選手が来場予定。

障害者の「可能性」に触れる  
絶好のチャンス☆



多くの県民、特に企業の  
来場を呼びかけ



# さいごに・・・

## 1 国と県との役割分担

地方自治体の財政状況は厳しい⇒



都道府県労働局には、  
地域の実情に応じた事業を執行できる財源  
がない・・・

【基本認識】

障害者「雇用」対策は国の役割



## 2 静岡県でのターニングポイント

- ①平成10年:ワークセンター事業のスタート
- ②平成11年:ユニバーサル技能五輪国際大会の招致決定
- ③平成16年:県内特例子会社数を2社⇒5社へ

背景にあるのは  
トップの取組姿勢

## 3 現場の声(企業)

○厳しい経営環境下でも、法律を守るため、懸命に障害者雇用を進めている。

そういう立場からすると、未達成企業にはもっと制裁を加えてほしい。

正直者がバカを見るという感じだ。(製造業中堅企業)

○トップを動かすのは、損得もあるが、「共感」が大きい。

障害者の働きたいという熱意や感動的なエピソードに触れさせることが有効であると思う。

(サービス業役員)



時 評

先般、川崎市に本社のある、ダストレスチヨーク（粉の飛散の少ない白墨）の国内トップメーカーである日本理化学工業という社名の中小企業を、研究仲間と訪問調査した。従業員は



坂本 光司

（静岡文化芸術大文化政策学部・同大学院教授）

川崎の本社工場と北海道の美唄工場を合わせ、計七十五人。その約七割の実に五十六人が知的障害者という、弱者に優しい中小企業である。

この会社の障害者雇用のきっかけは一九五九年（昭和三十四

障害者雇用47年の企業

年）の秋、本社近くの養護学校の先生が、来春めでたく卒業予定の二人の少女の就職を依頼に来た時という。過労が重なり、病弱となつてしまつた創業社長である父親を助けるため、教職になる夢をあえて捨て、後継者として入社していた現社長は、

その秋、本社近くの養護学校の言葉と先生の熱意、気迫にほだされ、その年の秋、一週間の職業体験の場を提供したのだという。

二人の少女は来る日も来る日も始業の三十分前には出社し、休憩のベルどころか、終業のベルが鳴っても手を休めることなく、一心不乱に仕事を続け

たという。一緒に仕事をしながら、二人の少女を正規社員として採用した。

当時、経営に余裕がなかったこともあり、その要請を丁寧に辞退したという。一緒に仕事をしながら、二人の少女は来る日も来る日も始業の三十分前には出社し、休憩のベルどころか、終業のベルが鳴っても手を休めることなく、一心不乱に仕事を続けていたという。一緒に仕事をしながら

二人の少女は来る日も来る日も始業の三十分前には出社し、休憩のベルどころか、終業のベルが鳴っても手を休めることなく、一心不乱に仕事を続けていたという。一緒に仕事をしながら

二人の少女を正規社員として採用した。それ以来、四十七年間、定期的に知的障害者を採用し続けているという。工場は障害者一人ひとりが能力を最大限発揮できるよう、製造工程にきめ細

か、この面でも全国一を目指すことが多くの県民の願いである。

能力発揮に細かな工夫

退したという。

しかし、その先生は徹りず、その後何回も会社を訪ね、四回目に来た時の帰り際、「採用してくれなくてもいいですから、せめて一週間、働く経験でもさせてあげてください。でないと、この子たちは働く喜び、働く幸せを知らないまま死んでしまいます」と頭を深々と下げて嘆願したのだという。そ

ちが、二人の少女の就業体験研修が終わる前日、社長を取り囲み、「一生懸命頑張っている少女たちの足りない点は必ず面倒見ますから、どうか二人とも来春、就職させてあげてください」と嘆願したのだという。

迷っていた数日後、尊敬する禅寺の住職から人間の究極の幸せは「人に愛されること、人に愛されること」と言った瞬間、あ

まりの感動に涙があふれ出てきた。

その姿を見ていた従業員たちが、二人の少女の就業体験研修が終わる前日、社長を取り囲み、「一生懸命頑張っている少女たちの足りない点は必ず面倒見ますから、どうか二人とも来春、就職させてあげてください」と嘆願したのだという。

迷っていた数日後、尊敬する禅寺の住職から人間の究極の幸せは「人に愛されること、人に愛されること」と言った瞬間、あ

まりの感動に涙があふれ出てきた。

まりの感動に涙があふれ出てきた。

執筆者略歴

◇さかもと・こうじ氏  
法政大卒。福井県立大教授などを経て04年4月から現職。専門は中小企業論・地域経済論・経営戦略論。大井川町。